人間の罪（原罪）

1.　天使

📖「初めに、神は天地を創造された。」創 1,1

- 天使の存在は信仰の真理である

328　物質的ではない、聖書によって通常天使と呼ばれている霊的存在者がいるということは、信仰の真理です。その点、聖書の教えと聖伝とは一致しています。

- 天使とは何か

329　聖アウグスチヌスは次のように語っています。「『天使』とは、本性ではなく役目を指していることばです。それでは、その本性を何と呼ぶのですか、とあなたは問うでしょう。その答えは霊です。役目は、と問われれば、天使と答えます。何であるのかといえば、それは霊で、何をするのかというのであれば、それは天使なのです」。天使は全存在をあげて神に仕える者、神の使者です。天使たちは「いつもわたし〔イエス〕の天の父のみ顔を仰いでいる」（マタイ 18.10）ので、「主の語られる声を聞き、みことばを成し遂げるもの」（詩編 103.20）なのです。

330　天使は純粋に霊的な被造物として、知性と意志を備えています。「わたし」という個であり、不死の被造物です。さらに、その完全さは目に見える全被造物を凌駕します。天使たちの栄光の輝きがそのことを示しています。

2. 天使の堕罪

391　人祖の不従順な選択の背後には、神に反対する誘惑者の声があります。この誘惑者は、羨望から人祖を死に追いやります。聖書と聖伝とは、この者は**サタン**または**悪魔**と呼ばれる堕天使であると見ています。教会の教えによれば、サタンは初め、神に造られたよい天使でした。「悪魔、およびその他の悪霊も、本性上はよいものとして神に造られましたが、自ら悪となりました」。

📖　「神は、罪を犯した天使たちを容赦せず、暗闇という縄で縛って地獄に引き渡し、裁きのために閉じ込められました。」２ペト 2,4

392　聖書はこの天使たちの罪について述べています（２ペト 2:4）。この「堕罪」は、被造の霊が自由な選択によって、神とその支配を徹底的に、また撤回できない方法で拒絶したことにあります。天使たちのこの反抗は、「神のようになる」（創世記 3.5）という人祖を誘惑した者のことばにうかがい知ることができます。「悪魔は初めから罪を犯している」（一ヨハネ 3,8）し、「偽り者であり、その父だから」（ヨハネ 8,44）です。

393　神の無量の慈悲に欠けるところがあるからではなく、天使たちの選択が撤回できないものであることこそ、その罪をゆるされえないものにします。「死後の人間に海い改めの余地がないのと同様に、堕罪の後の天使たちには海い改めの余地はありません」。

394　聖書は、「最初からの人殺し」（ヨハネ 8,44）とイエスから呼ばれ、御父から受けた使命に背かせようとあえてイエスさえも試みた者の、有害な影響を明らかにしています。「悪魔の働きを滅ぼすためにこそ、神の子が現れたのです」（一ヨハネ 3, 8）。サタンのわざのうちでもっとも重大な結果をもたらしたものは、人間を神に背かせた欺瞞の誘惑でした。

395　とはいえ、サタンの力は無限ではありません。被造物にすぎないのです。純粋霊なので強力ではあっても、被造物であることに変わりはありません。神の国の建設を妨げることはできないのです。サタンは世にあって、憎悪により神とイエス・キリストによるみ国に抵抗し、その行動は人間各自と社会に　－　霊的に、間接的には身体的にも　－　重大な損害を与えはしますが、人間と世界の歴史を力と優しさをもって導いておられる神は、その摂理に基づいてそれをゆるしておられます。神が悪魔の行動を妨げておられないのは深い神秘ですが、「神を愛する者たちには、万事が益となるようにともに働くということを、わたしたちは知っています」（ローマ 8,28）。

2.　原罪

📖 「(1)主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。『園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。』(2)女は蛇に答えた。 『わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。(3)でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。』(4)蛇は女に言った。『決して死ぬことはない。(5)それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。』(6)女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。」創 3,1-6

- ➲ この物語は象徴的な形になっていますが、歴史的な事実を表しています。
- ➲ 蛇（悪魔）は神を人間の競争の相手として、また、幸福を妨げるものとして見せ、神が示した道と違う道が幸福へ導くと嘘をつきました。
- ➲ 人間（エバ）は、神の言葉を疑ったので、悪魔にだまされました。
  （エデンの園の中で生まれたエバにとってエデンの豊かさは当然のものであったので、エバはエデンを神からの賜物として、また、神の愛の表現として認めることができず、神に関して感謝の心をもっていなかったゆえに、エデンの園が創られた前に何もない所での生活を体験したアダムよりも神の愛と神の善意を簡単に疑いました。）
- ➲ 悪魔の嘘を信じた人たちは、神が定めたと同じ目的を目指したが、神が示した道と違う道を選びました。
  - ◎ エデンの園において人間のすべての必要性が満たされていたし、他の被造物と調和の内に生きていたので、肉体的な苦しみを知らなかったでしょう。
  - ◎ 世界は、まだ最終的な目的に達していなかったが、人間は、神との友情の関係に生きていたし、神が自分に最善を尽くしていると信じたので、その理想（期待、希望、目指している目標など）は、現実と一致していて、精神的な苦しみや霊的な苦しみも知りませんでした。
  - ◎ 蛇が紹介した理想は、非現実的なものでしたが、人間は、それが可能であると思って、それを望むようになって初めて、現実と理想が一致しなくなったので、精神的な苦しみを味わいました。
  - ◎ 人間が「善悪の知識の木」の実を取って食べたという物語は象徴的に、人間は神を無視して、何が善であるか、何が悪であるかということを自分で決めることにしたという歴史的な事実を表しています。
- ➲ エバを守らなかったアダムの罪

3. 原罪の結果としての人間の苦しみと死　（創 3,7-24）

（カインとアベル創 4,1-26；洪水創 6,1-9,28；バベルの塔創 11,1-9）

📖 「(7)二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。(8)その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、(9)主なる神はアダムを呼ばれた。『どこにいるのか。』(10)彼は答えた。『あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。』」創 3,7-10

> ・・・罪が二つの結果をもたらすことを理解する必要があります。大罪はわたしたちの神との交わりを断ち、その結果永遠のいのちを受けることを不可能にします。この状態は、罪の結果として生じる「永遠の苦しみ（罰）」と呼ばれます。他方、小罪も含めたすべての罪は被造物へのよこしまな**愛着を起こさせます。**人はこの愛着から、この世であるいは死後、清められなければなりません。死後の清めの状態は煉獄と呼ばれます。この清めによって、人は罪の結果として生じる「有限の苦しみ（罰）」といわれるものから解放されます。**この二種類の苦しみ（罰）は、外部から神によって行われる一種の復讐ではなく、罪の本性そのものから生じるものと考えるべきです。**
> （カトリック教会カテキズム 1472）

➲ **悪霊との関係：悪霊がより簡単に人間に近づき、人間を攻撃するようになりました。**

🕮「主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は／あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で／呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。**お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。**」創 3,14-15

➲ **人間同士の関係：人間は、自分自身と他人の価値（尊厳）を知らないようになり、互いに愛し合い、協力する代わりに、争ったり、利用したりするようになりました。**

🕮「神は女に向かって言われた。『お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。**お前は男を求め／彼はお前を支配する**。』」創 3:16

➲ **自然（被造界）との関係：調和と正しい関係が破壊されました。人間は苦しむように、また、死ぬようになりました。**

🕮「神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い／取って食べるなと命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、**生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して／土は茨とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流してパンを得る／土に返るときまで。**お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」」創 3, 17-19

➲ **神との関係：神を知らないようになったので、神を恐れ、神から遠ざかるようになりました。**

🕮「主なる神は言われた。「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある。」主なる神は、**彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた。こうしてアダムを追放し、**命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。」（創 3,22-24）

*

◆ イエスが語った「毒麦」のたとえは、悪の由来とそれに対する神の態度について語ります。

🕮「イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょう。』主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」マタ 13,24-30

- 自由意志をもっている人間が神に逆らったゆえに、この世に悪が入り込みました。悪をなくするために、人間が神に逆らうことができないように、その自由意志を奪いとればいいと考える人がいます。けれども、人間が自由意志を奪われたら、愛することもできなくなりますので、結果的に、神が定めた最終的な目的に達することができなくなります。

- 罪の結果は、いやなことであっても、人間が間違った方向に向かっているということを示します。この結果がなくなれば、人間は正しい方向に向かっているかどうかが分からなくなるでしょう。神は、人間の罪の結果を取り消さないのは、初めに定められた世界の目的を諦めていないからです。

🕮「それはいったいどういうことか。彼らの中に不誠実な者たちがいたにせよ、その不誠実のせいで、神の誠実が無にされるとでもいうのですか。決してそうではない。人はすべて偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。」ロマ 3,3-4

- 人間は不誠実であっても、神はいつも誠実なのです。

4. 救いの計画

- 悪に打ち勝つ約束

📖「お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に／わたしは敵意を置く。**彼はお前の頭を砕き**／お前は彼のかかとを砕く。」創 3:15

- 神は殺人のカインを守る

📖「主はカインに言われた。「いや、それゆえカインを殺す者は、だれであれ七倍の復讐を受けるであろう。」主はカインに出会う者がだれも彼を**撃つことのないように**、カインにしるしを付けられた。」創 4,15

- 神の祝福と契約

📖「わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものを**すべて滅ぼすことは決してない**。雲の中に虹が現れると、わたしはそれを見て、神と地上のすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた永遠の契約に心を留める。」神はノアに言われた。「これが、わたしと地上のすべて肉なるものとの間に立てた契約のしるしである。」」創 9,1-17

*

📖 「狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。」イザ 11:6-9

📖 「現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないとわたしは思います。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。」ロマ 8:18-22

📖 「そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。黙 21,3-5